

第 8 回 E C E プログラム委員会幹事会
議事録

1. 日時：平成 24 年 1 月 24 日(金)10:00-12:00

2. 場所：日本工学会会議室

3. 出席者

川島一彦幹事長、小松生明、高草木明、但田潔、長井寿、持田侑宏、盛山保雄、山本誠、四戸靖郎（事務局）

4. 配付資料

資料 8.1 第 7 回 ECE プログラム委員会幹事会議事録（案）

資料 8.2 平成 23 年度 NIMS イブニングセミナー中間報告（案）（長井委員）

資料 8.3 平成 23 年度 CPD 講演会プログラム（案）

5. 議事

1) 前回議事録の確認

資料 8.1 に基づき、ECE プログラム委員会幹事会から先端計測とナノ物質 ECE プログラム推進委員会に参加する委員を変更すると同時に、ECE プログラムのポスターの作成を追加した上で、議事録として承認した。

2) ナノエレクトロニクス ECE プログラムの進捗状況

秋永委員が欠席のため、川島幹事長から平成 23 年度のナノエレクトロニクス ECE プログラムは産総研での実習を終えたが、現場実習についてはまだ調整中であることが報告された。ナノエレクトロニクス ECE プログラム推進委員会の中村道治委員長が JST に移動されたことに伴う、委員長職の取り扱いは秋永委員の判断に従うこととする。

3) 物質・材料基礎 ECE プログラムの進捗状況

長井委員から資料 8.2 に基づき、物質・材料基礎 ECE プログラムの進捗状況が報告された後、以下の議論を行った。

（1）プログラムでは、専門能力の向上、異分野技術を取り入れる能力の向上、社会人基礎力の向上を目指している。

（2）ほとんどが民間の受講者である。

（3）毎回 10 人程度から本質的な質問が出され、活発な質疑が行われている。参加者からは最終レポートを提出させることになっている。

（4）NIMS の講師も真剣勝負のつもりで対応しており、相当の労力を注ぎ込んでいるが、職員の能力向上にもつながっていると評価されている。また、講師を務めた職員からは講演して良かったとの意見がだされている。

（5）現在、ECE プログラム認定希望者は 8 名である。

(6) 現在までの講義数は 200 コース程度あり、テキストを Springer や John Wiley あたりから e-出版することを計画している。著作権は NIMS の機関帰属とする。これにより、職員は業務として勤務時間内に論文執筆にあたることができるようになる。

(7) 平成 24 年 3 月 23 日に平成 23 年度の最終講義となる 6 回目の講義が終了する。その後、平成 24 年 4 月以降に推進委員会を開催し、ECE プログラム認定者を選定すると同時に、平成 24 年度の計画を審議する予定である。

(8) 日本地震工学会 CPD 協議会 ECE プログラム委員会からの認定証は NIMS からの受講証明書と同日付けで出すようにする。

(9) 平成 24 年度の受講者の募集には、日本工学会のウェブも活用する。これに関しては、平成 24 年 4 月以降に開催予定の推進委員会において議論する。

4) CPD 講演会 (平成 24 年 2 月 29 日)

四戸事務局長から資料 8.3 を用いて CPD 講演会のプログラムが説明された後、以下の議論を行った。

(1) ECE プログラムの実施計画報告を川島幹事長が 30 分間行うこととなっているが、これに加えて、ナノエレ ECE プログラムの実施状況を秋永委員から、また、先端計測とナノ物質 ECE プログラムの実施状況を長井委員からそれぞれ紹介するようにしてはどうか？

(2) ECE プログラムの報告時間を 10 分ほど延長し、川島 20 分、秋永 10 分、長井 10 分という形で報告可能かを橋谷理事と相談する。

5) ECE プログラムのポスターの作成

ECE プログラムの作成に関し、以下の議論を行った。

(1) 誰に対する情報発信かを考えることが重要である。基本は技術者個人というよりも、その雇用者に向けた情報発信をしないと、技術者だけの判断で ECE プログラムに参加することは困難ではないか？ 雇用者が関心を持たない限り、社員を受講させないためである。雇用者向けのキャッチフレーズの検討を盛山委員と高草木委員に依頼する。

(2) デザインのセンスのある高草木委員の学生に、ポスターの作成を依頼する。適切な学生謝金を用意し、一度、学生にプレゼンを依頼する。

6) その他

次回は平成 24 年 4 月頃とし、別途、日程調整した上で開催日を決定する。